

情報セキュリティに関する最新動向調査

データベース部門 上繁 義史

IT化を推進する上で、情報セキュリティはいまや必要不可欠の要素です。情報セキュリティは技術・運用・ルールの三位一体で取り組まなければなりません。情報セキュリティ上の脅威は日々いろいろな形で出現していますから、その対策についてもどんどんアップデートしなくてははいけません。そこで、本センターでは、情報セキュリティの要素技術、法整備状況、運用について、最新の動向を調査するために、下表に示すシンポジウム、研究会などに参加・聴講しました。それぞれの参加概要については次項に資料掲載しています。

表：情報セキュリティに関するシンポジウム、研究会等

番号	開催日	シンポジウム、研究会等の名称
1	平成 19 年 5 月 30 日、 5 月 31 日	第 21 回インターネット技術第 163 委員会研究会
2	平成 19 年 7 月 13 日	平成 19 年度情報モラル啓発セミナー
3	平成 19 年 10 月 19 日	電子情報通信学会 九州支部 H19 年度専門講習会『情報セキュリティ最前線』
4	平成 19 年 11 月 14 日	日本セキュリティ・マネジメント学会 学術講演会
5	平成 19 年 12 月 12 日	IPA 暗号フォーラム 2007 秋
6	平成 19 年 12 月 21 日	第 1 回国立大学法人情報系センター ISMS 研究会
7	平成 20 年 1 月 31 日	デジタルフォレンジック日米共同研究に関する第 3 回ワークショップ
8	平成 20 年 2 月 7 日	IPA 情報セキュリティセミナー 2007
9	平成 20 年 2 月 15 日	徹底比較！仮想化ベストソリューションセミナー
10	平成 20 年 2 月 16 日	日本社会情報学会 第 111 定例研究会
11	平成 20 年 2 月 27 日	第 7 回九州 IT-Office セキュリティ検討会
12	平成 20 年 3 月 17 日	バイオメトリックシステムセキュリティ研究会「第 1 回個人情報保護とプライバシー影響評価ワークショップ」

資料 情報セキュリティに関する最新動向調査の概要

「情報セキュリティに関する最新動向調査」で紹介しました、シンポジウム、研究会等の参加・聴講の概要を以下にご紹介いたします。

番号	1	開催日	平成 19 年 5 月 30 日－5 月 31 日
名称	第 21 回インターネット技術第 163 委員会研究会		
会場	国立情報学研究所 (NII) 1210 会議室 (学術総合センター12 階)		
主催	日本学術振興会産学協力研究委員会 インターネット技術第 163 委員会 (共催: 情報処理学会 高品質インターネット研究会、電子情報通信学会 通信ソサイエティ インターネットアーキテクチャ研究会)		
参加者数	約 100 名		
概要	本研究会は、ネットワーク運用者、管理者、研究者を中心とした、インターネット技術に関する研究会です。インターネットアーキテクチャ研究会、地域間相互ネットワーク接続実験プロジェクト、CSI-INI 分科会合同セッション「キャンパス ID 管理の最新動向」に参加し、インターネット技術の具体的な取り組み事例を聴講しました。		

番号	2	開催日	平成 19 年 7 月 13 日
名称	平成 19 年度情報モラル啓発セミナー		
会場	京都リサーチパークセンター4 号館バズホール		
主催	中小企業庁、近畿経済産業局、(財) ハイパーネットワーク社会研究所		
参加者数	約 200 名		
概要	本セミナーは中小企業庁委託事業として (財) ハイパーネットワーク研究所 (大分市) が開催したもの。全国 5 都市にて開催することのこと (今回は第 1 回)。講演等では、中小企業向けに各種情報の取り扱いについて、とるべき姿勢や情報インシデントの事例や教訓について紹介がありました。		

番号	3	開催日	平成 19 年 10 月 19 日
名称	電子情報通信学会 九州支部 H19 年度専門講習会『情報セキュリティ最前線』		
会場	佐賀大学 理工学部 6 号館 多目的セミナー室		
主催	電子情報通信学会 本部、九州支部		
参加者数	約 50 名		
概要	本講習会では、組織、ネットワーク、Web アプリケーションの視点から、情報セキュリティ確保のための仕組み作りや情報インシデントの現状について以下の 3 件の講演が行われました。 1) 「セキュリティポリシーとインシデントレスポンス」 2) 「ネットワーク監視から見るサイバー攻撃手法の変化」 3) 「ネットワークアプリケーションのセキュリティ」		

Information Media Center
Annual Report 2008

番号	4	開催日	平成 19 年 11 月 14 日
名称	日本セキュリティ・マネジメント学会 学術講演会		
会場	中央大学 駿河台記念館 610 号教室		
主催	日本セキュリティ・マネジメント学会		
参加者数	約 50 名		
概要	<p>テーマ：「法対応と情報セキュリティのあり方—法・技術・管理からする横断的検討」</p> <p>情報セキュリティ対策として法規制（個人情報保護法、e 文書法、J-SOX 法等）を前提とした対応が求められています。そこで、法解釈に限定された議論を超えて、今後の情報セキュリティのあり方や方向性について、法律、技術、管理の視点について講演が行われました。</p>		

番号	5	開催日	平成 19 年 12 月 12 日
名称	IPA 暗号フォーラム 2007 秋		
会場	(独) 情報処理推進機構 (IPA) 15 階会議室		
主催	(独) 情報処理推進機構 (IPA)		
参加者数	約 80 名		
概要	<p>暗号の基礎理論～ハードウェア設計に関する最新研究動向について 5 名の専門家の講演がありました。RSA 暗号（世界的に利用されている公開鍵暗号）の開発者の一人 Shamir 氏の講演もありました。今回のフォーラムでは、電子署名の重要な構成要素であるハッシュ関数について安全性を向上させた手法の提案や攻撃法に関する提案の講演がなされました。</p> <p>ハッシュ関数：デジタルコンテンツの要約値を計算する関数。入力値が 1 ビットでも異なると出力値が大きく異なる性質があることから、デジタルコンテンツの改ざん検出に利用されている。ハッシュ関数に対する攻撃とは、元のデジタルコンテンツと同じハッシュ値となる入力値を効率的に求めることを指す。</p>		

番号	6	開催日	平成 19 年 12 月 21 日
名称	第 1 回国立大学法人情報系センターISMS（情報セキュリティ管理システム）研究会		
会場	キャンパスイノベーションセンター東京 国際会議室		
主催	静岡大学		
参加者数	約 80 名（ベンダ系企業が半数程度）		
概要	<p>静岡大学における情報セキュリティ管理システム（ISMS）認証取得に関する事例・ノウハウについて講演が行われました。ISMS マネジメントサイクルの実効性を担保するための具体的な工夫（文書作成・管理やネットワーク構成、アカウント管理ほか）や、ソフトウェア管理の考え方、啓発・教育活動についての現状を紹介がありました。また、今後の大学の ISMS の取り組み方について有益な示唆がありました。</p>		

<p>なお、本研究会では静岡大学、宇都宮大学につづき、山口大学が平成 20 年度認証取得に向けて活動中との紹介もありました。</p> <p>情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS): 情報セキュリティに対する組織的な取り組み方を体系化したもの。技術の導入だけでなく、運用、監査、セキュリティ上の事故の際の行動などを、組織の実情に即して計画、運用し、随時アップデートを図ることで、組織のセキュリティ管理能力を向上させていくことが期待されている。現在 ISMS は ISO/IEC 27001 にて国際規格となり、第三者認証機関の審査に基づいて認証が行われる。</p>
--

番号	7	開催日	平成 20 年 1 月 31 日
名称	デジタルフォレンジック日米共同研究に関する第 3 回ワークショップ		
会場	リーガロイヤルホテル京都 紅葉の間		
主催	東京電機大学		
参加者数	約 80 名		
概要	<p>本ワークショップは、2004 年度 JST 戦略的国際科学技術協力推進事業「フォレンジック手続きガイドライン作成のための基礎的研究 日米において証拠の相互利用を可能とするために」の一環として開催されました。</p> <p>デジタルフォレンジックに関する技術、法律、運用について、国内外の専門家による講演及びパネルディスカッションが行われました。関連する話題として、京セラグループの US-SOX 法対応の事例紹介がありました。</p> <p>デジタルフォレンジック: インシデント・レスポンス (コンピュータやネットワーク等の資源及び環境の不正使用、サービス妨害行為、データの破壊、意図しない情報の開示等、並びにそれらへ至るための行為 (事象) 等への対応等を言う。) や法的紛争・訴訟に対し、電磁的記録の証拠保全及び調査・分析を行うとともに、電磁的記録の改ざん・毀損等についての分析・情報収集等を行う一連の科学的調査手法・技術を言います。(出典: 辻井重男監修、デジタル・フォレンジック研究会編「デジタル・フォレンジック事典」日科技連刊)</p>		

番号	8	開催日	平成 20 年 2 月 7 日
名称	IPA 情報セキュリティセミナー 2007		
会場	船橋商工会議所		
主催	船橋商工会議所、(独) 情報処理推進機構 (IPA)		
参加者数	約 120 名		
概要	<p>本セミナーは年数回、IPA が日本各地で開催しているものです。基礎コースで情報インシデントの概要と最近の傾向を紹介し、一般ユーザ向けの基本的な対策とその有効性について紹介がありました。マネジメントコースでは組織における情報管理の視点から、情報セキュリティ・マネジメントの発想に基づく対策の考え方について、事例のケーススタディから紹介がありました。</p>		

番号	9	開催日	平成 20 年 2 月 15 日
名称	徹底比較! 仮想化ベストソリューションセミナー		
会場	富士ソフトアキバプラザ 6 階セミナールーム 1		
主催	富士ソフト (株)		

**Information Media Center
Annual Report 2008**

参加者数	50名
概要	<p>本セミナーでは、事業者の情報系部門の導入担当者を対象として、仮想化ソリューションの主要ベンダより、仮想化技術の最新動向について講演が行われた。最近提供されているソリューションのアウトラインが提示されました。</p> <p>仮想化の対象にはサーバ、クライアント、アプリケーション、プレゼンテーション、ストレージがありますが、その組み合わせ方、実装方式について、特徴が紹介されました。また併せて、仮想化ソリューション導入にあたっての注意点についても紹介がありました。</p>

番号	10	開催日	平成 20 年 2 月 16 日
名称	日本社会情報学会 第 111 定例研究会		
会場	中央大学駿河台記念館 570 号室		
主催	日本社会情報学会（共催：タイムビジネス協議会）		
参加者数	約 50 名		
概要	<p>情報セキュリティを応用した最新のビジネスモデルである「タイムビジネス」をテーマとして、須藤修教授（東京大学大学院情報学環）の基調講演、タイムビジネスの現況と活用状況、実証実験、事例について紹介がありました。事例としては「e 文書法対応」、「知的財産の取扱い」、「学術コンテンツ流通」が紹介されました。</p> <p>タイムビジネス：時刻認証（タイムスタンプ）を用いて、様々な電子データや電子文書などの電子情報のやり取りや電子情報そのものの安全性と信頼性を高めるビジネスのこと。主に「標準時配信サービス」「標準時配信・認証サービス」や「時刻認証サービス」から成る。</p>		

番号	11	開催日	平成 20 年 2 月 27 日
名称	第 7 回九州 IT-Office セキュリティ検討会		
会場	福岡 SRP センタービル 2 階視聴覚研修室		
主催	(財)九州システム情報技術研究所 第 2 研究室		
参加者数	約 30 名		
概要	<p>本講演会では、近年の IT 基盤技術に求められる「信頼」を担保するための取り組みとして、コンピュータのハード・ソフトの両面から、セキュリティ確保及び信頼性確保の仕組み作りについて紹介がありました。ソフト関連として Web2.0 アプリケーションにおけるセキュリティ、ハード関連としてトラステッドコンピューティング技術が取り上げられ、どのようにセキュリティと信頼性確保を目指すか、その考え方、取り組みについて紹介がありました。</p>		

番号	12	開催日	平成 20 年 3 月 17 日
名称	バイオメトリックシステムセキュリティ研究会「第 1 回個人情報保護とプライバシー影響評価ワークショップ」		
会場	東京理科大学森戸記念館		
主催	電子情報通信学会バイオメトリックシステムセキュリティ研究会		

	(共催：産学戦略的研究フォーラム、バイオメトリックセキュリティコンソーシアム)
参加者数	約 50 名
概要	プライバシーに関するリスクアセスメントとして、プライバシー影響評価 (PIA) が法制度や公的機関を中心とした自主的取り組みとして諸外国で取り入れられています。日本で PIA を実施するための枠組みについて提言する準備として、日本のプライバシーに関連する取り組み、PIA 導入に関する検討事項について講演がありました。また、PIA と環境アセスメントの対比や、諸外国の先行事例の現状についても講演があり、日本の今後に参加になる事案について紹介されました。